

----- (前回からの続き) -----

チアキ「あったま、痛い...」

もう、わけがわからない...そんなチアキを思いとどませたのは、残りの打ち合わせの日程、その一点だった。それでも、フラフラになったチアキを女性メンバーがビジネスホテルに送ってきてくれたことを思い出した。

昨日は明らかに飲み過ぎだよ。出張先にも迷惑掛けちゃったなあ。仕事は仕事で、きちっとすることだけに集中しなきゃ。

昨夜と同じメンバーとの打ち合わせも終わり、午後から戻ることになったチアキはメンバーの職場を案内してもらうことになった。この業界に二年いると多少は目が肥えるのか、ウェブデザインの人をちらほら見ることができる。でもプログラマーやSEといった風貌の人のほうが多いことも一目でわかった。

全体的に雑然としたフロアの一角にあるキャビネットの上がこぎれいになっていたのを目をやると、打ち上げなのか、何かの開発が終わった時のメンバーとタイチが写っていた。アキコさんもタイチ先輩の横にいる。みんな笑っていてとても楽しそう...

じっと見つめるチアキのそばで、「あの時は楽しかったなあ...」メンバーの一人がしみじみと言った。「タイチさんによろしくね」ともう一人。タイチ先輩って、慕われていたんだな...。胸が締め付けられるような感じがする。

*

次の日、割り切れない気持ちで、出張先から戻ったチアキはサーバールームにいるモトコに気づいた。モトコと話したら少しは気が晴れるかも...。珍しくチアキの方から声を掛けた。

チアキ「なにやってるのこんなに早く？ 始業前じゃないの」

モトコ「納期の関係で、ウェブサイトのファイル転送やってるんだけど、うまくいかないのよね。三日前はうまくいったのに...」

モトコはちょっと焦っている様子で、時間がないのよと独り言を言いながら繰り返しファイル転送していたが、ブラウザで見るとうまく表示されない。ファイル一覧を見てもファイルは送れているようだった。

チアキの仕事はウェブデザインが主でファイル転送は人に任せっきりだったが、ファイルが見慣れた形式で画面に表示されているのを見て、ポツリと言った。

チアキ「拡張子によって、転送方法って違うんじゃない？」

モトコ「えっ！チアキって、拡張子を気にしてるの？ちょっと待って…。あ～！
誰か設定変えてる！誰よっ、まったく。ヒントサンキュー！助かりー。
でも、チアキ凄いじゃん」

だって、DOSと似てたから…。チアキはそう言おうとして思いとどまった。
タイチ先輩に教わったことが仕事に生きてることには感動だけど、それをか
き消してしまう、何かが心にあることにチアキは戸惑った。

モトコ「ところで、どうだった？出張」

チアキ「別に。うまくいったよ」

モトコ「向こうの会社でのアキコさんはどんな感じだった？」

チアキ「どうして？あまり聞かなかったけど」

モトコ「実はさあ、チアキの出張中にさあ…」

サーバルームに人はいないのに、小声になったモトコの様子から何か意味あ
りげな雰囲気を感じ取ったチアキは、横の空いている席に腰をおろした。

モトコ「またまた、フロアに響く言い争いよ、あの二人。アキコ先輩とタイ
チさんさ、多分、仕事の進め方でぶつかってると思うのよね。今、
ウェブデザインと技術の両方を見てるのってタイチさんじゃん。立
場とか力関係とかあるのかもしれないけど、アキコ先輩が戻ってか
ら仕事の進め方かなり違ってきたでしょ、実際。あんたの出張もそ
れと何か関係があるように思うのよね」

いろいろな面で、チアキはモトコに一目置いている。ウェブデザイナーとし
ても先輩だし、仕事とプライベートをしっかり分けてるし、楽道家だし、そ
れにこの手の話しはホント、鋭いというか千里眼みたいだと思う。

モトコ「それでさ、どうなのよ。タイチ先輩とはさ」

チアキ「何がよ」

モトコ「チアキ先輩とか、過去とか何とか、いろいろあるんだろうけどさ」

チアキ「…」

モトコ「じれったいのよね。見てると。好きなら言っちゃえば？」

チアキ「えっ、そんな、好きとかじゃ…」

モトコ「そういうのを好きというんじゃない？チアキは単純だから、あた
いにはすぐわかるよ。何か胸につかえるような顔してるもん」

モトコに立て続けに痛いところをつかれて、頭の回転のいいチアキもごまか
しきれずに、顔がカーッと赤くなっていくのがわかる。

チアキ「そうじゃないから」

いたたまれずに、チアキはサーバルームを後にした。自席に戻ると机の上は出張中に溜まった連絡事項やら回覧やらで一杯だった。午前中、その処理をしている間も頭の中にはモトコの言葉が何度も繰り返されていた。なに言ってるのよ、モトコは！まだ、素直な気持ちにはなれそうもないチアキだった。

出張の時に使ったノートパソコンで報告書をまとめて、アキコに提出した時にはもう夕方になっていた。チアキが帰り際、出張で使ったノートパソコンを休憩室に設置し直している時、タイチが通りかかった。目の片隅にタイチがいることはわかっていたが、何を話したらいいのかわからなくなって、チアキは気づかないふりをしていた。

タイチ「ねえ、どうだった？打ち合わせは」
チアキ「あつ、ええ、あ、はい。順調に行きました...」

ちょっとした間も嫌うように、続けてチアキが言った。

チアキ「あ、それと、みなさん、『タイチさんによろしく』とのことでした」

"タイチさん"！？初めて使ったフレーズだった。いつもは"タイチ先輩"と呼んでいるチアキが言った、"さん付け"のニュアンスにチアキ自身が驚いた。いやだ。なにドキッとしてるの？

チアキは、しどろもどろに打ち合わせしたメンバーのこととか、みんな懐かしがっているとか一通り話した。でも、本当はアキコさんとは同じ職場だったんですね...って聞きたいのに。

タイチ「そうか、みんな元気そうか...。懐かしいな...。会いたいけどね。で、DOSの方はどうだい？リーフレットで覚えることができた？」
チアキ「え、は、はい...」

本当は元気よく、ハイ！と答えたいのにどうして？チアキは混乱していた。タイチは元気のない答えにあまり覚えることができなかったかとチアキの表情を読み取ろうとしていた。しばらくの沈黙の後、気まずくなったのか、チアキが言った。

チアキ「それじゃ...お先に」

*

いつもどおりの駅、いつもどおりの人ごみ、いつもどおりの食事、いつもどおりの時間...。でも、チアキの心はどこかにいってるようだった。就寝前に習慣になっているメールチェックをしていると「You have a mail.」の着信音。受信箱にはタイチからのメールがあった。

タイチ『出張先で何かありましたか？DOSの勉強は気が進まないのならしばらく休んだほうがいいですね。一応、メールでDOSの説明を送っておくので、もし気が変わったら一つ一つでも進めてください。もうちょっとですから。今は忙しくて、こんな形でしか応援できませんが、いろんなことに興味を持って頑張っているチアキちゃんを見ると僕も勇気づけられます。どうか元気を出してください。』
追申：休憩室のノートパソコンにあった説明用のDOSディレクトリーはコピーしておきましたので、添付しておきます。では』

タイチ先輩、わざわざコピーしてくれてたんだ…。いろんなことがあって、いろんな人の話を聞いて、なんだか混乱してるけど、タイチ先輩の接し方は変わってない…。先輩が悪いんじゃないのに、気を使わせちゃってる…。

DOSの勉強は続けようと思ったチアキだったが、それでもすぐにDOSの勉強に手はつけられなかった。結局、タイチからのメールを開いたのは二日後だった。チアキは添付されたファイルをWindowsで展開して、ルートディレクトリにコピーした。

チアキ「よし、がんばろっ！」

ここ数日、ウェブサイトの追い込みと納品準備で急がしく、仕事で一杯だったこともあるけど、久しぶりに見るタイチの丁寧な文面がチアキには妙に懐かしく感じられた。

タイチ『Windowsでファイルを削除する時は、ゴミ箱にドラッグします。このメタファー(比喻)はMacintoshからのものですが、DOSの場合の削除は今までどおり、コマンドを入力して行ないます』

メタファー？知らない単語だけど比喻ってことね。Macintoshって、ウェブサイトの確認用にしか使っていないけど、そんなにWindowsに影響を与えたのかあ。今度、詳しくタイチ先輩に聞こ…聞ければいいな。

タイチ『DOSを起動して、¥foobarディレクトリに移動し、dirコマンドでファイルの確認をしてください』

チアキは慣れた手つきで、foobarディレクトリに移動して、dirを実行した。

```
C:¥WINDOWS>cd ¥foobar
C:¥foobar>dir
```

(略)

```
.                <DIR>          04-04-05  12:13  .
..               <DIR>          04-04-05  12:13  ..
TEST    TXT          58  04-04-05  12:15  test.txt
```

```

TEST2    TXT                58  04-04-07  08:52 test2.txt
NEWDIR    <DIR>              04-04-07  09:05 newdir
TEST3    TXT                58  04-04-07  09:22 test3.txt
          3 個                174 バイトのファイルがあります。
          3 ディレクトリ      4,588.56 メガバイトの空きがあります。

```

ああ…。時間まで前に作ったままだよ。DOSってそのときの気持ちまで、そこに閉じ込めて記録しているみたい。タイチ先輩からのリーフレット、出張先の飲み会での話、キャビネットの上の写真…いろんなことが浮かんできちゃう。

チアキ「いけない、いけない。集中、集中」

頭を振って、気持ちを切り替えるチアキだった。さあ、次、次よ。幸いなことに次の文章は長くて難解そうだった。

タイチ『このディレクトリに存在するtest.txt、test2.txt、test3.txtの3つのファイルのうち、test2.txtとtest3.txtを削除してみましょう。DOSの削除コマンドはdelです。以下のようにコマンド入力してください(delとtest2.txtの間、delとtest3.txtの間は半角スペース)』

```

『del test2.txt
del test3.txt』

```

ふーん。DOSで削除するコマンドって、delっていうんだ。多分、deleteよね、これって。チアキはタイチのメール通りに入力していた。

```

C:¥foobar>del test2.txt
C:¥foobar>del test3.txt

```

test2.txtを削除した時に何も変化がなかったけど、チアキはDOSがまた黙秘権を行使していると思うことにして、気にしないで次のコマンドを入力してみた。

タイチ『C:¥foobar>プロンプトが表示されるだけで、画面に変化はありません。しかし、ファイルは削除されています。dirコマンドで確認してみてください』

ほら、やっぱりそうだ。でも、タイチ先輩は説明を省略せずに、丁寧に書いてくれるのよね。ホントにやさしいと思う。でも、みんなにもそうなのかな。アキコさんにも…。

チアキ「ああ、まただ…。集中しなきゃ」

最近、深夜まで残業が続くタイチが戻るのはいつも24時近かった。プロ野球ニュースの時間に帰るようになったら黄色信号だ。開発の仲間内ではそういうことになっている。リラックスしてビールを飲みながら、チアキに送ったメールを見ていたタイチは、二日前の休憩室でのことを思い出していた。

チアキが出て行った後、彼女が設置していたノートパソコンを見てみた。タイチが用意したリーフレットに従ってファイルのコピーやディレクトリの作成をしていた跡が残っていた。タイムスタンプを見ると、出張当日の列車の中で勉強したのもわかる。あの子、ほんと、賢明に頑張ってたんだ...

チアキのことは、初めは単なる興味本位の知りたがり屋さんとはか思っていなかったが、真剣に話を聞いて努力して覚えていこうとする姿勢を見ているうちに、その存在が自分の中でだんだん大きくなってきていることをタイチは素直に認めた。

----- (つづく) -----

Copyright(C) 2005 rpn hacks! All rights reserved